

## 献 辞

人文社会学研究科准教授 内田 奈芳美

外岡豊先生は、本年 3 月 31 日をもって埼玉大学を定年退職されました。私は外岡先生と大学でご一緒した期間は 2 年しかありませんので、存じ上げる範囲は非常に限られてはおりますが、僭越ながらここに献辞を述べさせていただきます。

外岡先生は早稲田大学理工学研究科で工学博士を取得され、平成 8 年 4 月に本学経済学部教授として赴任されました。本学経済学部には 20 年間勤務されました。その間、組織改組までは社会環境設計学科に所属され、環境政策等の講義を担当されてきました。環境問題について理論的・実証的研究を進められ、外岡先生のご講義では他学部の学生など、広い範囲の学生が数多く受講してきたと聞いております。環境政策・環境問題という視点から経済開発が進む中での、持続可能性のあるべき姿を提唱されてきました。

これまでのご研究は多岐にわたられるのですが、持続可能エネルギー、CO<sub>2</sub> 排出、地球温暖化問題、住宅環境など、一貫して持続可能性というテーマを持ちながら、様々な切り口からそのテーマを研究してこられました。その中でも貨幣経済への着目など、環境問題と経済学を融合した新しい研究分野の開拓に積極的に取り組んでいらっしゃいました。研究フィールドとしては日本国内だけではなく中国やモンゴルなど、広く学究の場を求めてこられました。中国研究についてのアドバイスをいただいたこともあります。

また、日本建築学会では平成 25 年～平成 26 年に地球環境委員会の委員長を務められ、国産木材の活用を含めた地球環境対策についての研究を進められていました。私も日本建築学会の他の委員会でご一緒することがありましたが、縮退社会の中での日本における都市の持続可能性とは何かということに関して、熱心に議論されていました。

学生に対してはいつも笑顔でおおらかに接していらっしゃった姿が印象的です。その中でも、持続可能な社会に向けた理論などについて精密に指導されていたことを思い出します。留学生の指導なども含め、全世界的な問題として環境問題を考え、広く理念を伝えようとされていたのだらうと思います。

退職後も学会での活動を含め、引き続き精力的に研究を続けられることかと思えます。お体をお大事になさって、また学会でもお目にかかれることを楽しみにしております。